

壁掛形 据付工事説明書

※説明書は、室内フーットの据付け方法を記載しております。

電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。

ワイヤレスキットの取付け方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。

室外ユニットの据付け方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットには必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- この指示に注意事項は、**【警告】**、**【注意】**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。○、絶対に行わない ①、必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、運転操作を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（フィアットの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
- この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。
- この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。 This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

警告






- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をする不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
 - 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
 - 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界温度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付けを。万一、冷媒が漏洩して限界温度を超えると酸欠事故の原因になります。
 - 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当該指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
 - 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
 - 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
 - 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
 - 室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
 - 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
 - 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続が固定で不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
 - 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
室内外ユニット間の接続が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
 - 据付工事後完了、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒ガスに漏れ、ファンヒーター、ストーブなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
 - 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用を使用する。
既存(R22)の部品を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
 - フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付けする。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
 - ドレン配管はイソオクタン系等有機溶剤の発生する排水口に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
 - 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けおらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
 - ボンパダン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
 - オプション部品は、必ず当該指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
 - 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
 - エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
 - 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
 - バネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
 - 元電源を切った後迄電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。



①据付の前に

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

据付関係

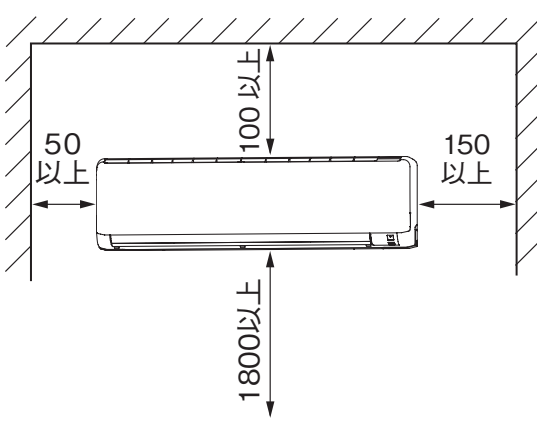
1	据付板		1 個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンネジ		10 個	据付板用 径 4mm× 長さ 25mm
3	インシュレーション		1 個	断熱用 50mm×100mm
4	空気清浄フィルター		2 個	付属品
5	フィルターホルダー		2 個	付属品

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にもこみりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・感温センサを取付の場合据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
 - ・人感・サビ防止の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が2℃以下、相対湿度80%以下の所。
- 〔室内ユニットはJIS露付条件（室内：27℃/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲に上記条件以上の高湿度帯困気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕
- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
 - ・室内ユニット真下へ食品・食器やパソコン、サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込できない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ワイヤレス機種を2台以上据付けの場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。

室内ユニット据付スペース

單位：〔mm〕



お願い

- 点検、メンテナンス作業のため
スペースを確保してください。



⚠ 注意

- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電遮断器は必ず取り付けます。
漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全線遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れおそれのある場所への設置は行わない。
ファンガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所の据付け、使用は行わない。
熱気の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所から転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品、動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保管物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、遺物保存所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から電磁波が強い通信機器・高周波を与人体の医療行為を防げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たるところにリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れおそれがある所
・硫黄ガス・塩素ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど
・煙突の煙がかかると
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・機器に影響する物質の発生する所
・車庫・船舶等移動するものへの設置
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・高周波を発生する機械を使用する所
・積雪の多い所
・海浜地区等塩分の多い所
・標高1000m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所の室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるため、その指示に従ってください）
・吸込口、吹出口への風物障害がある所
・人感センサ搭載（ナール）は次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能、特性劣化を招く恐れがあります。
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍）
・長時間高温、多湿になる場所
・ドレンの排水がとれぬ所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れ及び損傷を与える恐れのある場所
性能や機能等に影響を及ぼす原因になります。

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80％以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付けを使用しない。
傷んだ状態で近くまで搬入すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近所で溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタの室内ユニットにあたった場合、ドレン管などに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーしてください。

●ドレン工事とは、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸欠不足になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭小部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超過し、酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱材を行く配管と表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺に害を及ぼすことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手やフィンなどに刺れたりケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にタギなどのも金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをする可能性があります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

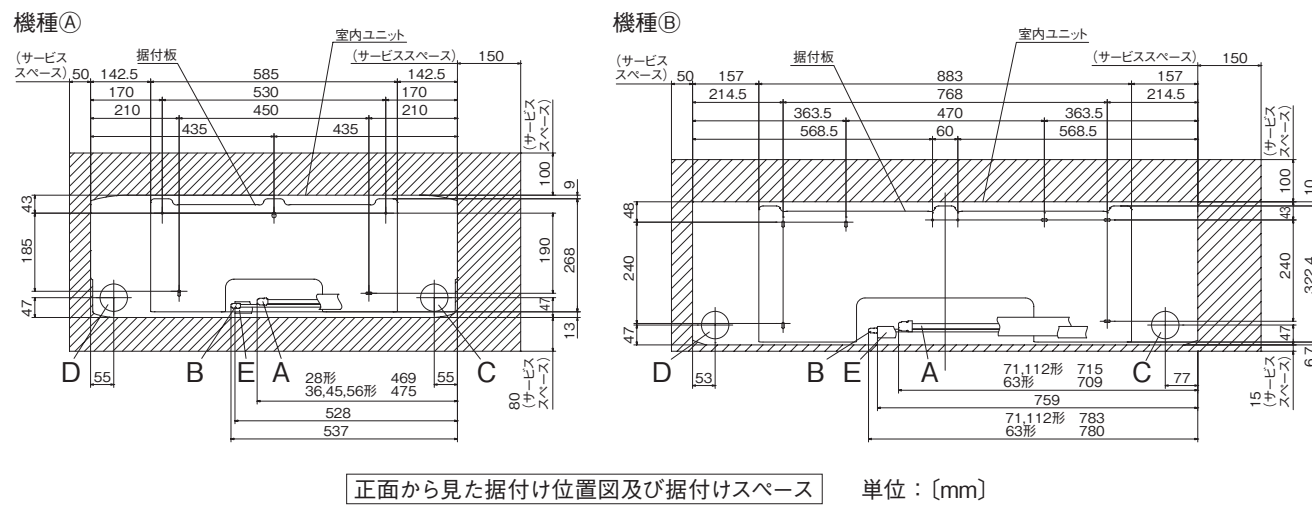
●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待つてください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。



③据付け前の準備



機種^①：店舗

機種②：店舖

記号		記号	
A	ガス側配管	D	左配管後方抜壁穴
B	液側配管	E	ドレンホース
C	右配管後方抜壁穴		

④室内ユニットの据付け

搬入



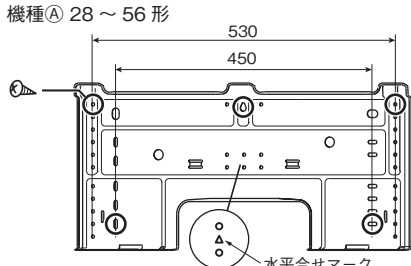
お願い

- 搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
 - やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み室内ユニットを傷つけないように注意してください。
- 注) 吹出ルーバ部分を持たないでください。
- 解梱後室内ユニットを置く場合は、必ず室内ユニットの前面側を上にしておいてください。

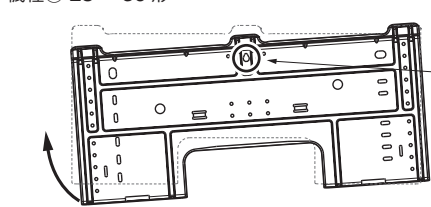
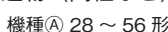
据付板の取付け

●この室内ユニットを直接壁面等に据付けすることはできません。
いずれの場所に据付ける場合にも必ず付属の据付け板を使って据付けてください。

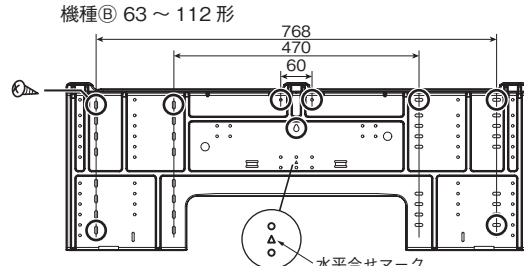
○据付板の水平調節は5～9本のねじを仮締めした状態で行います。



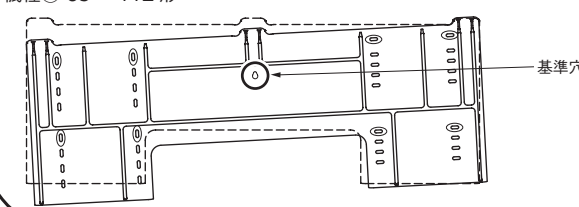
○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。



○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。



機種® 63 ~ 112 形

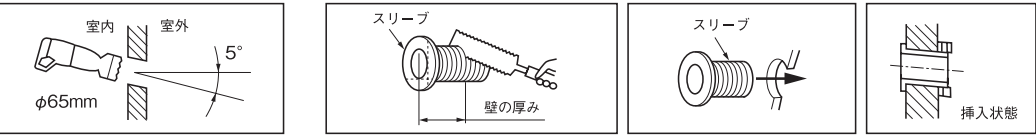


裏面へつづく ➡ 4

④室内ユニット据付けのつづき

壁の穴孔け要領

- 接続配線が壁の中のラスメタルなどに接触して危険が生じる場合がありますのでスリーブは必ず使用してください。
- 左後抜き配管の場合、スリーブのツバが本体よりはみ出る場合がありますので、その場合はツバを切断してください。



- φ65のホールコアドリルで穴あけをします。
- 右後抜き配管の場合はスリーブのツバの下部及び右側薄内部を切りとります。(破線指示箇所)

警告

壁穴をバテで完全にシールしてください。(ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内機内に流入し、火災の原因になることがあります。)

注意

壁穴をバテで完全にシールしてください。(水漏れ・露たれし、家具等を濡らす原因になることがあります。)

室内ユニットの据付

機種A 28～56形

機種B 63～112形

据付作業手順

●室内ユニットを据付板から取外す場合
室内ユニットベース下部ツメ位置マーク部を指で上方向に押しながら、室内ユニット下部両端を引き上げてください。
室内ユニットベース下部ツメが据付板から外れます。

⑤配管・ドレンホースの整形

配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの (JIS B 8607 2種適合品) をご使用ください。他のフレアナット (1種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。

配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		R32 用 R410A 用	リジッド (クラッチ式) 従来ツール		
6.35	0.8	0～0.5	0.7～1.3	8.9～9.1	14～18
9.52	0.8			12.8～13.2	34～42
12.7	0.8			16.2～16.6	49～61
15.88	1			19.3～19.7	68～82
19.05	1.2			23.6～24.0	100～120

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。
- また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。
- 冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。
- 指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。
- 冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R 32 用または R 410 A 用の工具を使用してください。

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外してください。
 - ※ 室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで 2 丁掛けて外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
 - フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続してください。
 - ※ 配管の曲げは 4 D 以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
 - ※ フレア接続は、以下のように行ってください。
 - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで 3～4 回転ねじ込み、2 丁スパナ掛けて上表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、下図に示すように室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。
 - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
 - ※ 配管は断熱しないと結露し水漏れします。
 - ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
 - 高湿度雰囲気中使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

付属のインシュレーションで断熱してください。

＜室内ユニットの外部で配管接続し、断熱を強化する場合＞

＜2丁スパナ掛け＞

⑤配管・ドレンホースの整形のつづき

〈後取り出しの場合〉
○配管の整形

●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する

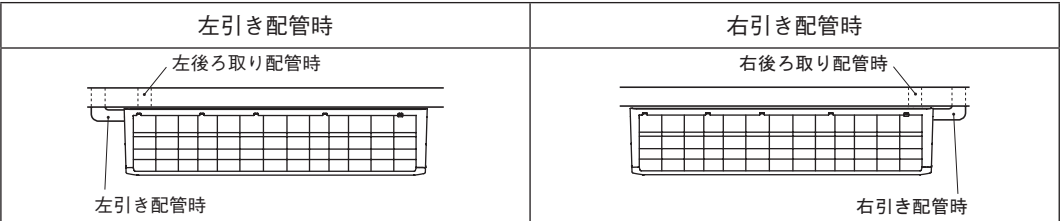
●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。

●塗り配線は必ず配管とテーピングしてください。

●テープ巻きの際、ドレンホースが引っ張られないように注意してください。

配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

〈左取り出し・後取り出し時の注意事項〉
〈上から見たところ〉



〈ドレンホース付替え作業手順〉

1. ドレンホースを外します。

2. ドレンキャップを外します。

3. ドレンキャップを差し込みます。

4. ドレンホースを接続します。

●ドレンホース固定用ねじを外しドレンホースを回転させながら外してください。

●手または、ペンチ等で外してください。

●2. で外したドレンキャップを六角レンチ等を持ちて確実に差し込んでください。

注: 確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

●ドレンホースを回転させながら確実に差し込んだあと、固定用ねじを取りつけてください。

注: 確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
- 不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
- 室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

1. ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管 VP-16 が接続可能です。
2. ドレン配管はドレン水が流れやすいように下り勾配にし、配管途中にトラップをつくったり山越え配管をしないようにしてください。(左、右、後、下方向に取出し可能)
3. 熱交換器の下ドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。(前面パネルの取付け取外しについては本説明書 ⑨電気配線取出し位置および電気配線接続 をご覧ください。)

ドレン排水について

●高気密住宅や高層マンション等に据付ける場合、または強風の影響で部屋が負圧になる場合は別売部品「エアークットバルブ (EA455A)」をご使用ください。

●ドレンホースは必ず下り勾配を付けてください。

●次のようなドレン排水は行わないでください。

- 延長ドレンホースが室内にある場合は必ず、シールドパイプ (現地手配) を使用して確実に断熱してください。

⑧空気清浄フィルターの取付け

下記の手順に従って室内ユニットに取付けてください。

1 吸込パネルを開け、エアフィルターを取外します。

2 付属品に同梱されている水洗いサンファルター (オレンジ) と酵素強力除菌フィルター (グリーン) をフィルターホルダーに取付けます。

空気清浄フィルター交換時は室内ユニット本体からフィルターホルダーを取外し、新しい空気清浄フィルターと取替えてください。

※ 酵素強力除菌フィルターはブリーツ (ひだ形状) が手前側になるように取付けてください。水洗いサンフィルターはどちらをおもてにしていいただいても結構です。

3 空気清浄フィルターを取付けたフィルターホルダーをエアコン本体に取付けてください。

※ 水洗いサンフィルター、酵素強力除菌フィルターは左右どちらへ装着いたいても結構です。

4 エアフィルターを取付け、吸込パネルを閉じます。

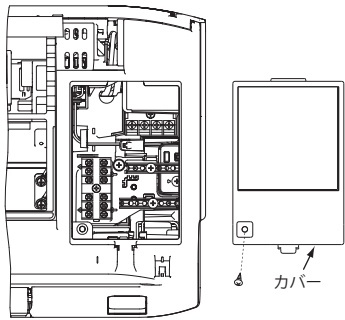
⑨電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

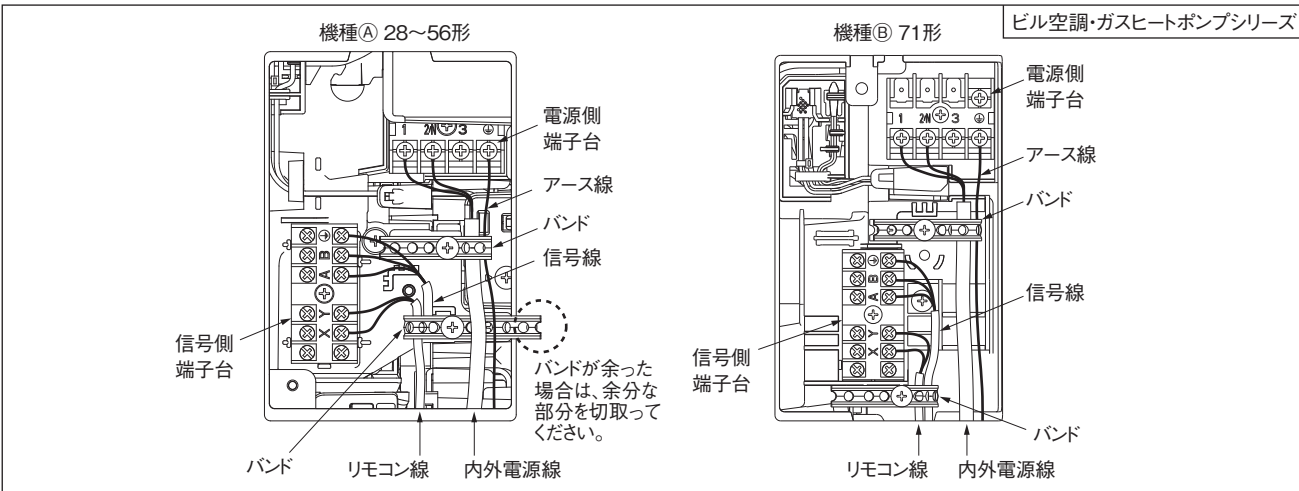
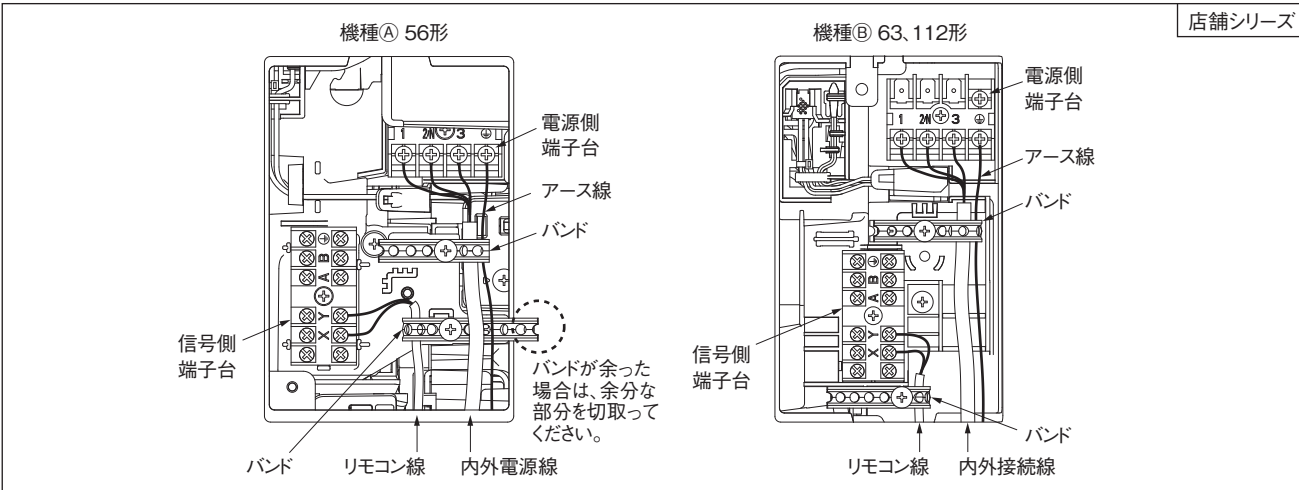
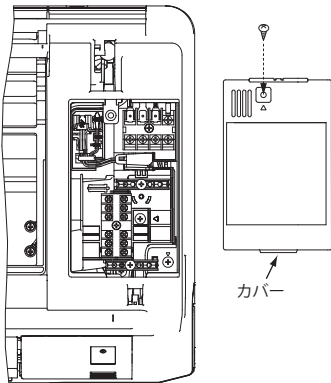
機種 ④：店舗シリーズ 56 形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 28 ～ 56 形
⑤：店舗シリーズ 63、112 形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 71 形

- ①吸込パネルを手前に引き上げてください。
左右側面の凹部に手をかけ手前に引き上げますと約 60 ～ 70° 開いた状態で静止します。
 - ②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
 - ③各配線を端子台に確実に接続してください。
 - ④各配線をバンドで確実に固定し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにしてください。
 - ⑤カバーを取り付け、ねじを締めます。
 - ⑥吸込みパネルを締めます。
- (注意) ・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

機種④ 28 ～ 56 形



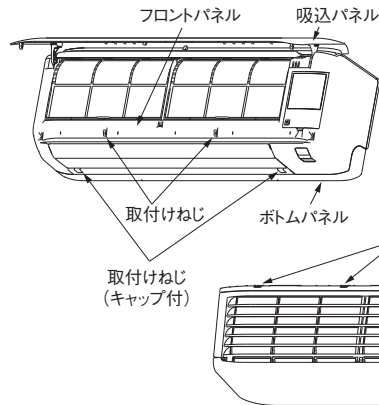
機種⑤ 63 ～ 112 形



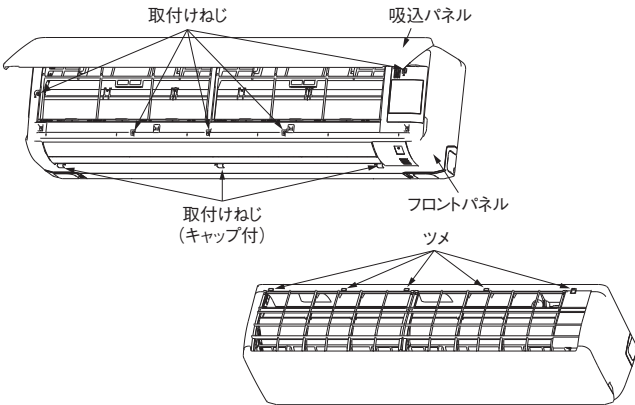
⑨電気配線取出し位置および電気配線接続のつづき

- アドレス設定
室内ユニット本体のフロントパネルと、コントロールボックスのふたを取外すことでアドレススイッチの設定が可能です。
1. フロントパネルの取外し順序
 - ①吸込パネルを取外してください。
 - ②ボトムパネルの取付ねじを外してください。(機種④のみ、キャップ付き)
 - ③ボトムパネルの両側にあるツメ(2ヶ所)を取外し、ボトムパネルを取外してください。(機種④のみ)
 - ④取付ねじを取外してください。(機種④2ヶ所、機種⑤5ヶ所・キャップ付3ヶ所)
 - ⑤上部のツメ(機種④4ヶ所、機種⑤5ヶ所)を外し、フロントパネルを取外してください。
 2. フロントパネルの取付け順序
 - ①フロントパネルを室内ユニットにかぶせ、上部のツメ(機種④4ヶ所、機種⑤5ヶ所)を引っ掛けてください。
 - ②取付ねじを締めます。(機種④2ヶ所、機種⑤5ヶ所・キャップ付3ヶ所)
 - ③ボトムパネルの両側にあるツメ(2ヶ所)を引っ掛け、ボトムパネルを取付けてください。(機種④のみ)
 - ④ボトムパネルの取付ねじを締めてください。(機種④のみ、キャップ付き)
 - ⑤吸込パネルを取付けてください。

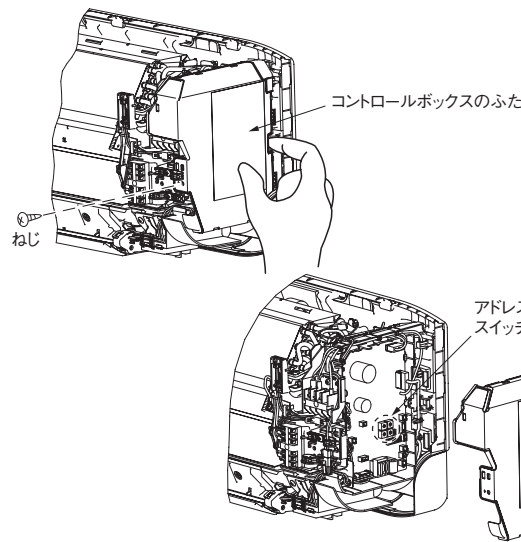
機種④ 28 ～ 56 形



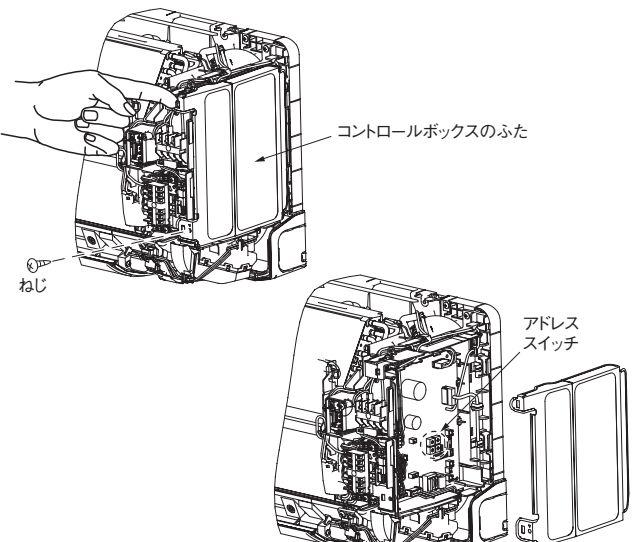
機種⑤ 63 ～ 112 形



機種④ 28 ～ 56 形



機種⑤ 63 ～ 112 形



⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

- 室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	